



谷原小だより 1月号

平成 24 年 1 月 10 日
練馬区立谷原小学校
校長 眞瀬 敦子

辰・経つ・建つ・立つ

校長 眞瀬 敦子

明けましておめでとうございます。

昨年の東日本大震災という未曾有の天災と、福島原発事故という未曾有の人災から、明日でちょうど 10 ヶ月が経ちます。私の友達の中にも、今年は年賀状に「おめでとう」という言葉を使わない、という人がいました。福島に親戚がいて、今年は年賀状を出す気になれない、という人もいました。

七草も過ぎ、明日は鏡開きで、1 月も中旬となります。それでも私は敢えてこの言葉で新年第 1 号を始めたいと思います。大変なことがあったからこそ、その年が明けて良かったね、新しい年が来て良かったね、と日本国中で寿げるような、そんな一年を、私達みんなで作りに上げていきたいと思います。

昨年の大災害で、私は大きく二つのことを考えました。

その一つは子供達の安全です。あの日私は真剣に、耐震工事ができないから建て替えるという学校には子供達を置いておけないと考えました。過ぎてみれば校舎には亀裂一つ入らず、日本の学校の安全性が証明されたようなものでしたが、今は大工事の真っ最中です。ここでまた大きな地震が起きたら、と様々な場合を想定して毎回の避難訓練を行っていますが、安心ということはありません。また、震度 5 弱以上の地震の場合は、保護者が引き取りに来るまで学校で子供を預かるということが区として決められましたが、帰宅途中だったり既に帰宅して一人で留守番をしている子供をどうするか、その子達との連絡方法があるのか、保護者との連絡は新システムで本当につくのかなど、問題は沢山あります。あの日から子供達も避難訓練での態度が変わりましたが、更に子供達一人一人に“自分の身は自分で守ることのできる判断力”を付けていかなくてはならないと思います。これは学校だけでは充分には行えません。ご家庭でも様々な場合を想定して、お子さんと常に話し合っていていただきたいと思います。

もう一つは、私達の生活そのものの見直しです。原発を即刻廃止する、と言うことは簡単ですが、あれだけ依存していたものを無くすとしたら、いくら代替りのクリーンなエネルギーを開発するといっても、まず私達の生活、便利さを第一に追求してきたこの生活を根本から変えていく必要があります。省エネや節約だけではない、私達の生き方そのものに関わる大切なことだからこそ、子供達にも自分たちの未来を思い描く力を付けさせなくてはならない、これがこれからの教育の大きな課題であると思います。

今年は辰年です。辰は「立つ」につながることから、昨年の卯年の卵から生まれたものが立ち上がる年だそうです。そして次の巳年で「実」になるよう励んでいく年です。

今年谷原小は開校 55 周年を迎えます。その年の 12 月には第 1 期工事が完成し、新校舎の大部分が建ち上がります。昨年 8 月に工事が始まってから、本校の教職員は文字通り休み時間も返上して子供達の安全に気を配ってきました。今年一年も気を抜くことなく安全に配慮し、子供達の明るい未来に向け、ご家庭・地域の皆様と力を合わせて学校教育を行っていきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。